



AEDセミナー開催

ICU 長野 綾子

当院では、全職員が AED を含む一次救命処置を習得することを目的に、年 4 回 AED セミナー、mini-ICLS セミナーを開催しています。病院内では、**3 分以内の除細動を実現する**為に AED の設置が推奨されており、看護師やその他の職員も AED の訓練を受け、包括的指示下のプロトコールに沿って AED を使用しなければなりません。BLS のスキルを身につけ維持するのはもちろんのこと、このセミナーを継続させるためにも、皆様の**インストラクターとしての参加をお願いします**。

受講生 南 4 病棟 宮内 恵子

AED セミナーを受講し、体位変換・心配蘇生法・AED 使用方法を学びました。シナリオを使用した急変時対応シミュレーションでは受講生全員汗かくで有効な CPR を目指し頑張りました。

翌日は筋肉痛でしたが…。今後も定期的に参加し、病棟内での急変に備えたいです。



インストラクター 北 5 病棟 直野 千紘

初めて BLS のインストラクターに参加しました。BLS の重要性を再認識するとともに、他者に教える事で知識や自己の理解度をより高める事が出来ました。BLS は救命の第一歩であり、手技を確実に行わなければ人命を救うことに繋がりません。

一人でも多くの方が人命を救助できるよう、これから多くの人に伝えていきたいです。

第 26 回日本手術室学会に参加して

手術室 千葉 陽子

今年のテーマは手術領域の細分化、手術療法の高度化や対象の高齢化などの様々な環境に、柔軟に対応できる手術看護能力を「進化する手術看護」と捉え、「進化する手術看護への挑戦—様々な医療環境に柔軟に対応できる手術看護能力の構築—」でした。

当院でも虫垂切除、鼠径ヘルニア、胃切除など様々な術式で低侵襲の腹腔鏡下手術が増加し、新たな手術器械の導入や手順の確立に取り組んでいるところです。セミナーでは、腹腔鏡下大腸切除術時の体位である碎石位・頭低位・ローテーションを手術室認定看護師が外科医や麻酔医も交えて、実際にティスカッションしながら体位固定を行っているのを見せいただきました。体位固定だけでなく、新しい手術療法に対応し、患者様にとって安全安楽な手術看護が実施できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術の様子

病棟トピックス ~手術室~

★手術室留学★

皆さんは知らないから怖いと感じ、解からないから不安になり、手術室留学をためらっていませんか？

例えば、術前処置の点滴をとる位置や固定方法・ネームバンドの位置・麻薬や薬剤貼用の位置など、**術式や体位を知ることでアセスメント**することが出来ます。術式別体位が理解できると、術後の皮膚や神経症状の観察に活かすことができます。術前から保温を行い、手術患者の体温維持に努めています。術前から看護している事のエビデンスがわかると、もっと**充実した継続看護につながる**と思ひます。周術期看護の充実の為に、一緒に勉強しましょう。

「看護師特定能力認証制度」法制化推進中

高度な臨床実践能力を持つ看護師が、看護を基盤として幅広い医行為を含む看護業務を提供する事で、より患者の生活に合わせた医療の提供が可能となる新たな枠組みです。日本看護協会も、今後の社会の変化を踏まえ、限られた医療資源で質の高い医療・介護を効率的に提供するために、医療関係職種がそれぞれの専門性を最大限発揮し協働する「チーム医療」を推進しています。そのため、本制度についてもその一環として有効であると考え、患者の安全を担保し、看護師の専門性を最大限発揮できるよう、法制化を推進しています。

日本看護協会ホームページより